

会 議 要 録

名 称	第3回 西予市中学校再編検討委員会	
事 務 局	教育委員会教育部教育総務課学校再編係	
	電 話 0894 - 62 - 6430	
	F B X 0894 - 62 - 6564	
開 催 日 時	令和8年2月5日(木) 19:00~20:56	
開 催 場 所	西予市役所5階 大会議室	
出席者	委 員	21名(欠席4名)
	その他	
	事務局	教育部長 教育総務課5名 学校教育課3名 まなび推進課2名
議事内容(要旨)		
委員長	<p>進行：教育総務課長</p> <p>1 開 会</p> <p>2 委員長あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>西予市中学校再編検討委員会設置要綱（以下、要綱）第6条第1項により、進行（議長）は委員長。</p> <p>委員21人の方に出席であり、過半数以上の出席があることから、要綱第6条第2項により会議が成立することを報告する。</p> <p>（1）小中一貫校（義務教育学校・小中一貫型小中学校）について</p>	
委員長	<p>小中一貫校（義務教育学校・小中一貫型小中学校）についての説明を事務局に求める。</p>	

事務局	小中一貫校（義務教育学校・小中一貫型小中学校）について説明する。
委員長	委員に質疑・意見を求める。
委員A	大洲市の平野小中学校は幼稚園も含めモデル校であると思うが、平野小中学校については調査したのか。
事務局	平野小中学校について教育委員会にヒアリングしたところ、モデル校ではあるが、小学校は小学校で運営、中学校は中学校で運営されているのが実情。小学校、中学校、幼稚園が同一敷地内にあるため、イベントなどでは連携されているが、運営については、別々である。
委員長	<p>小中一貫校は特色あるカリキュラムがしっかりと構築されている点が大きな特徴であると感じている。一方で、そのカリキュラムが作られてきた背景を考えると、地域における合意形成や、整備に必要な条件など、いくつかの前提要素が存在するのではないかとの説明があったと認識している。</p> <p>仮に同様の取組を検討するのであれば、西予市内の各地域においてそれらの条件が整っているかどうかについても、併せて検討していく必要があると考えている。</p>
委員B	義務教育学校が増加している背景として、少子化が一つの契機になっていると認識している。一方で、少子化という要因を除いた場合においても、教育的なメリットを重視し、それを主たる動機として義務教育学校への移行や設置が進められているのかどうか、その点について把握したいと考えている。
委員長	特色ある教育を実現できる点がメリットとして評価され、設置が進んでいるのかどうかを知りたいということか。
委員B	教育的メリットがあるから増えているのか、それとも少子化への対応が主な要因であり、その両方が重なっているのか、その点を確認したい。
委員長	内訳を可能な範囲で説明できるか。

事務局	<p>義務教育学校の設置は、全国的な少子化を背景としつつ、都市部では学校の魅力向上や児童生徒の呼び込み、過疎地域では学校存続の手段として活用されるなど、地域の実情に応じた目的の違いがあると考えられる。数値で示せとなると難しい。</p>
委員C	<p>教育委員会として、この一貫教育について提案が出た以上、今後さらに議論を深めていく考えがあるのか、それとも議論する予定はなく、説明のみで終わるという整理なのか、その方針を明確にしていきたい。</p> <p>議論を行わないのであれば、今回ここまで説明する必要があったのかという疑問も残るため、今後の取扱いについて考えを伺いたい。</p>
事務局	<p>前回検討会において、委員から学校再編を進める中で義務教育学校などの制度について十分に知られていない状況の中で、特定の再編方法のみを前提として議論するのではなく、「こうした制度も選択肢として存在している」という情報を示した上で、再編について議論を進めた方がよいのではないかと、この意見があった。そのため、今回あらためて制度の紹介を行ったものである。</p> <p>一方で、西予市としての基本的なスタンスとしては、生徒数の将来推計を踏まえると、仮に小中一貫校とした場合であっても、同級生の人数が増えるわけではいという認識であり、市としては、一定規模の同級生集団の中で、子どもたちが互いに切磋琢磨しながら学ぶ環境を重視していることから、現時点で提示している再編の素案については、学校同士を統合する形を基本として示しているところである。</p>
委員長	<p>西予市としての基本的なスタンスについては、先ほど説明したとおりであり、その考え方を委員の皆様と共有したという位置づけである。</p> <p>今回の説明は、小中一貫教育（義務教育学校）についても、学校再編を検討する上での一つの選択肢として存在することを示したものであり、その点をご理解いただきたい。</p> <p>(2) 各学校の現状報告について</p>
委員長	<p>各学校の現状について明浜中学校から順に報告を求める。</p>

明浜中学校長

本校は、令和7年度において1年生10名、2年生14名、3年生12名の計36名の生徒が在籍する学校であり、学級数は通常学級3、特別支援学級1の計4学級である。令和8年度については、生徒数は34名に減少する見込みであるが、学級数は引き続き4学級で推移する予定。

生徒は総じて素直で明るく、学習態度や生活態度も落ち着いており、現在までいじめ等の重大な問題事案は確認されていない。校長着任以降約1年半の間、子どもたちは仲良く学校生活を送っているとの認識である。

通学手段は、バス通学16名、自転車通学5名、徒歩通学15名となっており、最も遠方の生徒で片道約35分を要している。

学力面では、県平均に概ね近い水準にあると考えている。全国学力・学習状況調査においては、国語は県平均を0.4ポイント下回ったものの、数学は0.7ポイント上回っており、全体として平均的な学力を有していると捉えている

部活動は、男子バレーボール部、女子バレーボール部、女子ソフトテニス部が設置されている。部活動に対する生徒満足度は、1学期90.3%、2学期90.4%と高い水準である。

学校生活全般の満足度についても調査を行っており、1学期81.9%、2学期80.3%と、一定の満足度が確認されている。

再編に関する不安や期待について、生徒からは、安心・安全で防災対策が十分な学校、清潔なトイレ環境、1クラス10人程度の現状に近い規模、教員との距離が近く親しみやすい学校を望む声が多く聞かれている。一方で、多くの人と交流できる規模の大きい学校や、部活動の選択肢が多い学校を希望する生徒もいる。通学時間については、できる限り短いことを望む意見が多い。

教職員からは、仮に中央の中学校へ移動することになった場合、学校が地域からなくなることで、明浜地区の過疎化や地域衰退が加速するのではないかという懸念が示されている。また、通学時間が片道1時間以上となる可能性があり、現状でもバス通学中は多くの生徒が睡眠時間に充てていることから、長時間通学が学習や生活に与える影響について心配する声がある。

学校運営協議会では、5校を1校に統合する案について、さまざまな生徒と関わることで教育的効果が期待できるという意見がある。2校であっても最終的にはさらに統合が進み、1校になるのではないかという諦観的な意見や、財政ありきで話が

明浜中学校長	<p>進んでいるのではないかとの指摘もあった。</p> <p>5校を2校にする案については積極的な意見は多くなかったが、1校案に比べて通学負担が軽減される点は評価されている。</p> <p>義務教育学校については、いずれ統合される可能性が高く、長期的な継続は難しいのではないかとの意見がある一方、地域施設の有効活用や学校を地域に残す手段として評価する声もあった。ただし、中高一貫校にしても、一時的なブームのように終わるのではないかという懸念も示された。</p>
委員長	<p>続いて、城川中学校に報告を求める。</p>
城川中学校長	<p>本校には43名の生徒が在籍しており、内訳は1年生11名、2年生18名、3年生14名である。学級編制は、普通学級が3学級、特別支援学級が1学級の計4学級となっている。</p> <p>全国学力・学習状況調査の結果では、ほぼすべての教科において全国平均および愛媛県平均を上回っており、学力面では良好な成果を上げていると認識している。</p> <p>部活動については、軟式野球部が野村中学校との合同チームとして活動している。柔道部は外部指導者として地元柔道会の方に指導を依頼しており、この体制は30年以上継続している。</p> <p>また、卓球部は男女混成で活動しており、ソフトテニス部は女子のみでの活動となっている。</p> <p>本校は西予市内でも教職員の年齢層が非常に高い学校であり、非常勤講師を含めると60代が6名、50代が5名、30代が1名という構成である。ベテラン教員による落ち着いた学習環境という利点がある一方で、若手教員のエネルギーや活力が不足している点が課題と捉えている。</p> <p>校舎は平成13年4月に統合中学校として開校しており、築25年程度と比較的新しく、施設面では良好な教育環境にあると考えている。</p> <p>昨年度から、城川のビッグフェスということで、城川支所や地域活動センターと連携し、地域と学校が共同で取り組むイベントを開始し、今年度は第2回を実施した。</p> <p>来年度は、ふるさと祭りと中学校の文化祭を合同で開催する案も検討されており、さらに地域行事への参加や総合的な学習の時間を活用した発表活動など、地域と一体となった取組を進めていく予定である。奥伊代太鼓も。</p>

城川中学校長	<p>このように、本校は地域との結びつきが非常に強い学校であると認識している。</p> <p>通学環境については、通学手段は、徒歩 5 名、自転車 23 名、バス 15 名であり、遊子川地区 3 名、土居地区 1 名、高川地区 11 名がバス通学をしている。現在でも最長で約 40 分を要している生徒がおり、仮に統合が進んだ場合、最遠で片道約 1 時間 30 分、往復 3 時間の通学となる可能性がある。</p> <p>仮に市内 2 校体制となり野村方面に通学する場合でも、片道 1 時間程度は必要と見込まれ、通学面での不安や心配を抱く生徒・保護者がいる状況である。</p> <p>ワークショップ等では、学校が統合されることで地域とのつながりが弱まり、地域の過疎化が加速するのではないかと懸念が示された。地域との関係性が強い学校であるがゆえに、学校がなくなることへの不安の声が多く聞かれている。</p> <p>学校が市内 1 校体制になった場合、教職員数の削減は避けられず、定年延長により教員の高齢化が一層進むことが懸念されている。若手教員の採用が少ない現状の中で、家庭事情や介護等の負担も重なり、比較的動きやすい若手教員が東予や中予に行くことで、結果として若手教員がさらに減少していくのではないかと懸念が教職員から示されている。</p>
委員長	<p>続いて、野村中学校に報告を求める。</p>
野村中学校長	<p>本年度の全校生徒数は 152 名。1 年生が 49 名、2 年生が 52 名、3 年生が 51 名となっている。各学年 2 クラスで、特別支援学級が 1 クラスある。</p> <p>来年度については、現時点で全校生徒数は 145 名を予定しており、学級編成数は本年度と変わらない予定である。</p> <p>通学については、現在は徒歩通学が主。溪筋・河成方面については、途中まで宇和島自動車のバスを利用していたが、宇和島自動車撤退により、現在は町内の業者のバスを利用している。バス通学の生徒は、二つ合わせておおよそ 30 名程度。自転車通学を申請している生徒が 15 名程度おり、それ以外は徒歩通学。</p> <p>1 月 22 日に市内で中学生のワークショップが開催されたが、前日の 1 月 21 日に、市が用意した学校再編に関する動画を生徒に見せた。学級ごと、また全校で集まり、この再編について、子どもたちからどのような意見が出たかを確認した。</p>

野村中学校長

傾向としては、行事の盛り上がりや友達関係、部活動の選択肢、通学距離といった点を理由に、少人数校には否定的な意見が多く見られ、各学年2クラスから3クラス程度がよいと考えている生徒が多かった。

希望する再編の形についても生徒に聞いてみた。市内1校の再編を支持する生徒が全体の15%、2校再編が50%、再編そのものに反対が21%、その他が14%だった。

「その他」とは何かというと、生徒数に偏りがあるため、宇和は単独、明浜と三瓶を一つにする、野村と城川を一つにするといった再編はできないのかという意見だった。

次に教員の声についてです。本校の教員に対しても、市の動画を各個人で視聴してもらい、再編に対する考えを確認した。結果としては、1校再編を支持する教員が40%、2校再編が53%、再編反対が7%でした。

1校再編を支持する理由としては、いずれ再編が必要になるのであれば、段階的に進めるよりも、最初から1校にしておいた方がよいのではないか、という考え。

2校再編については、通学面で、公平性が図れないのではないか。通学にかかる時間が心配だという意見があった。

教員に聞いた再編した場合の教育効果としては、専門教科の教員から指導を受けられる体制が整い、専門性の高い授業が可能になることが挙げられる。また、教員数が増えることで業務の分担が進み、教員間の負担の公平化が図られると考えられるとの意見があった。

懸念事項としては、不登校の生徒への対応についてである。

学校が身近にある場合であれば、生徒自身が自力で登校することも可能であるが、再編すると、保護者による送迎が必要となるケースが増え、送迎が難しい家庭では、短時間であっても登校の機会そのものが失われるのではないかという意見があった。

生徒が怪我や病気をした際に、保護者が迎えに来る場合についても、移動時間の増加などにより、保護者の時間的負担が大きくなるのではないかとの意見があった。

地域に学校がなくなることにより、若い子育て世代がその地域に住み続けなくなり、結果として地域の活力がさらに低下していくのではないかという意見もあった。

先月1月15日に学校運営協議会を開催し、委員の皆様に対して学校再編について簡単な説明を行い、意見を伺った。

野村中学校長	<p>委員からは、「正直なところ、地域にはやはり学校があってほしいというのが本音である」との意見が多く聞かれた。その上で、再編を行うのであれば、地理的な距離をできるだけ考慮し、2校体制が望ましいのではないかという意見や、「せめて1つの町には中学校を残してほしい」という要望が出された。</p> <p>一方で、西部と東部の2校に再編した場合、生徒数に大きな差が生じるのではないかという懸念も示された。生徒数の偏りが、教育環境や学校運営のさまざまな面に影響を及ぼし、格差につながるのではないかという指摘である。そのため、3校編成など、生徒数の均等化を図る方法は検討できないのかという意見もあった。</p> <p>町から学校や病院がなくなっていくことは、地域の衰退を象徴する現象ではあるが、最も大切なのは当事者である子どもたち、そして保護者の意見であり、それらに真摯に耳を傾けることが必要。あわせて、地域住民に対しても丁寧な説明を行い、十分な経緯を踏まえた上で結論を出してほしい、という意見であった。</p>
委員長	<p>続いて、宇和中学校に報告を求める。</p>
宇和中学校長	<p>本校については、他校とはやや異なる状況があるため、その概要について説明する。</p> <p>現時点における全校生徒数は412名である。学級数は17学級で、そのうち特別支援学級が4学級ある。特別支援学級のうち1学級は、児童心理治療施設内に設置された分教室であり、児童養護施設「ひまわりの家」内に所在している。現在、当該分教室に在籍している生徒は1名である。</p> <p>本校では、不登校の生徒が非常に多い状況にあることから、不登校対応の校内サポートルームを設置している。また、対応する教員1名が配置されている。</p> <p>これに加えて、教室復帰を目指すための中間的な学習環境として、「ステップアップルーム」を1室設置している。通級指導教室が市内で本校に1つ設置されており、担当教員が1名配置されている。来年度に向け、現在、県に対して教員2名配置の要望を行っているところである。</p> <p>教職員数は、非常勤職員および市職員を含めて51名である。不登校対応に関連して、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、不登校対策担当職員など、多くの専門職員が学校に関わっている。</p>

<p>宇和中学校長</p>	<p>学力面については、全国学力・学習状況調査において、国語は県平均を上回る結果となった。一方で、その他の教科については概ね県平均並みである。</p> <p>部活動については、運動部が15部（男女合同部を含む）、文化部が4部であり、全員部活動制を採用している。地域クラブ活動に参加している生徒については、学校の部活動と併せて地域クラブにも参加している状況である。</p> <p>学校評価アンケートによると、「学校に行くのが楽しい」と回答した生徒は84%であった。一方で、16%の生徒が「楽しくない」と回答しており、この割合は不登校生徒数とも一定の関連があるのではないかと考えられる。</p> <p>「先生が生徒の話をよく聞いてくれる」と回答した生徒は93%、「教え方がわかりやすい授業をしている」と回答した生徒は92%であり、教員が生徒に対して手厚く関わっている状況がうかがえる。</p> <p>本校は立地条件が良く、多様な進路選択が可能であることから、進学先は公立高校に限らず、私立高校を含めて多岐にわたっている。また、近年は通信制高校へ進学する生徒も増加している傾向が見られる。</p> <p>本校の大きな課題として、不登校生徒が非常に多い点が挙げられる。30日以上欠席した生徒数は、令和5年度が46名、令和6年度が42名、今年度は1月30日現在で27名となっており、最終的には30名を超える可能性がある。校内サポートルームには、現在17名の生徒が通室し、学習を行っている。</p> <p>教員の授業時数は他校と比較して多い傾向にあり、24時間を超える状況が見られる。これに部活動指導が加わることで、教職員に十分な余裕がない状況となっている。</p> <p>市内他校と比べても、勤務時間が長く、超過勤務の傾向が強いことが課題として挙げられる。</p> <p>学校再編や統合に関して、生徒および保護者から現時点で大きな不安の声は聞かれていない。ただし、本校の校舎は老朽化が進んでおり、仮に統合校となった場合には、施設の老朽化が大きな懸念点である。</p> <p>統合により寄宿舎が設置された場合、その運営に伴う教員の負担増加を懸念する声も出ている</p> <p>スクールバスの運行についても、バスの発着場所をどこに設けるのかという課題がある。本校周辺は国道の交通量が多く、バスの出入りが安全面・混雑面で困難になるのではないかとの意見が出されている。</p>
---------------	---

<p>宇和中学校長</p>	<p>さらに、校舎を建て替えないまま統合が行われた場合、教室数が生徒数に対して十分に確保できるのかという点も、不安材料として挙げられた。</p>
<p>委員長</p>	<p>続いて、三瓶中学校に報告を求める。</p>
<p>三瓶中学校長 (代理：学校教育課長)</p>	<p>三瓶中学校の全校生徒数は94名である。学級編成は、通常学級3学級、特別支援学級1学級の計4学級である。生徒は非常に真面目で、授業や部活動に落ち着いて取り組んでいる様子が見られる。</p> <p>学校生活に関するアンケートにおいて、学習面、生活面、教員の関わりについて調査したところ、生徒および保護者のいずれも、約8割から9割が肯定的な回答をしていた。このことから、多くの生徒および保護者が学校生活に満足していることがうかがえる。</p> <p>一方で、部活動の充実度については、肯定的な回答が半数に満たず、課題として捉えられている</p> <p>生徒に対し、「自分には良いところがあるか」「将来の夢や目標を持っているか」といった質問を行った結果、自分に良いところがあると肯定的に回答した生徒は51%以上であり、全国平均(約40.9%)を上回っている。</p> <p>また、将来の夢や目標を持っていると回答した生徒は42.9%で、全国平均(約35.5%)を上回っており、自己肯定感の高さがうかがえる。</p> <p>家庭での学習時間については、3時間以上が8.6%(全国約8.5%)、2～3時間が22.9%(全国約18.7%)、1～2時間が48.6%(全国約25.4%)となっており、全国平均と比較しても、家庭学習時間は十分に確保されていると考えられる。</p> <p>読書が好きと回答した生徒は60.0%で、全国平均とほぼ同程度である。</p> <p>問題解決に向けて自分で考えたり、考えをまとめて表現したりすることについては、以前の調査と比べ改善傾向が見られるものの、依然として苦手意識を持つ生徒が多い状況である。</p> <p>そのため、授業においては、小集団学習や話し合い活動を積極的に取り入れるとともに、ICTを活用し、自分の意見を表現し相手に伝える機会を増やすことで、思考力・表現力の向上を図っていく方針であり、学校全体で取り組んでいる。</p>

<p>三瓶中学校長 (代理：学校教育課長)</p>	<p>全校生徒 94 名のうち、徒歩通学が多数であり、自転車通学生は 24 名、バス通学生は 17 名である。通学時間は、徒歩で 5～10 分、自転車で約 10 分、バスで 20～30 分程度である。</p> <p>ICT の活用により、保護者や生徒への連絡が円滑になり、連携が図りやすくなっている。</p> <p>また、今年度より地域・学校協働活動推進員が配置され、職場体験等の行事において、学校と地域との連携調整を行っていただいている。地域や学校のニーズに応じて、さまざまな団体との連携が進められており、学校としても大変助かっている状況である。</p> <p>地域の高校がなくなったことにより、地域で活躍していた高校生の役割を中学生が担う場面が増え、地域活性化に貢献する機会が増えているとのことである。</p> <p>授業および家庭学習において、1 人 1 台端末の活用が進んでいる。委員会活動や欠席連絡等でも活用されており、端末操作については生徒間で十分に定着している。</p> <p>部活動については、男子が野球、卓球、ソフトテニス、女子が卓球、バレーボール、バスケットボール、男女合同の創造クラブがある。女子バスケットボール部は現在休部状態である。野球部は宇和中学校との合同チーム、女子バレーボール部は秋山中学校との合同チームとして活動している。</p> <p>いじめについては、今年度認知したいじめは 2 件で、いずれも 1 年生によるものであり、「嫌なことを言われた」「叩かれた」といった内容であった。いずれも速やかに指導を行い、現在は解消している。</p> <p>毎月の生活アンケートの実施や、学期に 1 度の全校教育相談、管理職やスクールカウンセラーを含めた相談しやすい体制づくりにより、いじめの早期発見・早期対応に努めている。</p> <p>不登校生徒は今年度 3 名であり、昨年度と比べて減少している。学校行事や進路選択に向けて前向きに取り組めるようになっている。</p> <p>担任だけでなく、管理職や養護教諭を含む全教職員で関わり、生徒一人一人に応じた声かけや支援を行っている。</p> <p>現在、育児休業中の教員の代替教員が配置されていないため、1 人当たりの校務分担が多くなっている。また、出張者が複数いる場合には授業編成が難しく、行事等では教員数が不足する状況も見られる。</p>
-------------------------------	---

<p>三瓶中学校長 (代理：学校教育課長)</p>	<p>小規模校であるため学年部の人数が少なく、行事運営等において、教職員一人一人の負担が大きくなっていることが課題である。</p> <p>校舎については、外壁の剥離が多数確認されたため、安全確保を目的とした大規模な安全対策工事を実施している。生活面で一定の不便さはあるものの、生徒および教職員ともに注意を払いながら学校生活を送っている。</p>
<p>委員長</p>	<p>委員に質疑・意見を求める。</p>
<p>野村中学校長</p>	<p>一点、重要な点を言い忘れていた。野村中学校には、惣川地区および大野ヶ原地区から通学している生徒が在籍しており、これらの生徒については通学距離が非常に長い。そのため、月曜日から金曜日までの平日は寄宿舎（寮）に宿泊し、金曜日に帰宅、月曜日の朝に再び登校するという生活形態を取っている。それだけ通学に要する時間的負担が大きい状況である。</p>
<p>委員D</p>	<p>徒歩、自転車、バスなど通学手段が多様である中で、通学時間について何らかの基準や目安が全国的に定められているのか、また、スクールバス利用の場合に「この程度までに抑えるべき」といったルールが存在するのかについて確認したい。</p> <p>あわせて、全国平均としての通学時間の状況や、西予市と同程度の規模・地理条件を持つ市町における通学時間の実態について、現時点での即答でなくてもよいので、後日資料等で示してほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料として準備する。次回からのグループワークにお役立ていただきたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>子どもたちの意見については、この後あらためて説明がある予定であるが、まず教員の意見について触れる。</p> <p>教員の意見としては、全体的には学校再編に対して、どちらかといえば肯定的な意見が多かったと受け止めている。</p> <p>その上で、今後の検討において争点・ポイントとなる点として、いくつか共有しておく必要があると感じている。</p> <p>東・西に分けた再編を行った場合の生徒数の偏りについてである。地理的な条件を踏まえながら、どのように生徒数の均衡・均等を図っていくのかが大きな検討課題になると考えられる。</p>

委員長	<p>通学時間がどの程度になるのかという点も重要。再編後の通学条件が、生徒にとって過度な負担とならないかどうかについて、具体的な検討が必要である。</p> <p>学校規模と指導の関係も挙げられる。一般的に学校規模が大きくなるほど、不登校の生徒が増加する傾向が見られるという状況がある。</p> <p>そのため、対人関係スキルを身に付けさせる指導をどのように行っていくのか、また、不登校等への対応を含めた適正な学校規模をどのように考えるのかという点も、重要な検討ポイントになると考えている。</p>
委員E	<p>再編の方向性としては、学校を1校に統合するのか、2校体制とするのか、あるいは再編自体を行わないのかといった選択肢が考えられると思う。</p> <p>3校案として、ある程度の生徒数を想定した案や意見がこれまでにでていた。そうしたパターンも一つの検討材料として考える必要があるのではないかと感じている。</p> <p>現時点で、それらを正式に検討するかどうかは判断できないが、少なくとも3校案として提示された複数の再編パターンを含めて検討した方がよいのではないかという印象を持った</p>
委員長	<p>3校に再編する場合には、どのようなエリアで区分するのかといった点についても、あらためて検討していく必要がある。本日は、そうした意見が出たという事実について、参加者間で共有しておきたい。</p>
委員F	<p>3校案や生徒の割り振りをあらためて検討する場合の一つの考え方として、例えば、野村・城川を一つの学校とした場合、学校規模の差を解消するために、明間地区については地理的に見て野村・城川方面の方に比較的近い状況も考えられる。実際に明間地区の住民や保護者がそれを望むかどうかは別問題であるが。通学区域の設定について、旧町単位で必ずまとまらなければならないのか、それとも、一定程度柔軟に区域を組み替えることが可能なのか、その点について考え方が分かればありがたい。</p>
事務局	<p>今回の区域設定の柔軟性に関する質問については、事前には想定していなかった内容である。本日は「そのような意見が出</p>

事務局	<p>た」という事実を受け止めた上で、報告し、あらためて協議することとしたい。</p> <p>(3) 中学生ワークショップの報告について</p>
委員長	<p>中学生ワークショップの報告についての説明を事務局に求める。</p>
事務局	<p>中学生ワークショップの報告について説明する。</p>
委員長	<p>事務局に続き、中学生ワークショップの報告について説明する。</p>
委員長	<p>委員に質疑・意見を求める。</p>
委員A	<p>サポートルームには、通常の授業には参加できないものの、サポートルームには登校できる生徒が一定数いる。運動会などの行事には参加できない場合もあるが、通常登校している生徒が「一緒に給食を食べよう」「部活動は一緒に行こう」と声をかけるなど、日常的な関わりが学校の中で自然に生まれていた。</p> <p>そのような関わりの中で、学校に来られない時期があった生徒も、周囲の子どもたちとつながりを持ち続け、高校進学につながっている事例が実際にあるとのことであった。サポートルームがあることで、部活動への参加や修学旅行への参加など、「すべてができない」状態ではなく、一部でも学校生活に関われる環境が整っていることが大きな意味を持っている</p> <p>現在の不登校の状況は、かつての「登校拒否」とは様相が異なり、学校との関係が完全に断たれているわけではない。</p> <p>合唱コンクールや文化的行事では、クラスごとに競い合い、休憩時間にも自主的に練習を行うなど、生徒が非常に意欲的に取り組んでいる姿が見られたという。結果に対する喜びや悔しさをクラス全体で共有する経験は、中学校段階として非常に価値のあるものだと感じた</p> <p>こうした集団の中での経験があるからこそ、学校に来づらい生徒に対しても、「休みの日に一緒に遊ぼう」「声をかけに行こう」といった支え合いが生まれ、子どもたち同士で問題を乗り越えようとする姿勢が育まれているのではないかと</p>

委員 A	<p>明浜中学校の子どもたちは、高校進学後も含めて非常に思いやりがあり、優しい性格の生徒が多いと感じている。一方で、小規模校であるがゆえに、クラス替えを経験してみたかった、他の部活動に挑戦してみたかったといった声も聞いた。</p> <p>サポートルームをはじめとする現在の中学校の仕組みによって、高校進学につながっている生徒が実際におり、「一人にしない」体制が機能していると感じていること、保護者としては、こうした取組があつて本当によかつたと思っている</p>
委員長	<p>近年、子どもたちの状況は友人関係も含めて多様化している。そのため、学校として多様な児童生徒を受け入れる体制をいかに確保するかが極めて重要である。</p> <p>特に、継続的な参加が望ましい活動であっても、当面は参加が難しい生徒に対して、短時間・部分的でも参加できる機会を用意する等、段階的な関わりを支える環境整備が求められる。</p> <p>また、今後、たとえ学校再編が行われたとしても、こうした受け入れ体制（例：サポートルームの活用や柔軟な参加機会の設定など）は引き続き必要であり、再編後の学校運営においても継続・強化していくべき重要事項である。</p>
	<p>(4) アンケートについて</p>
委員長	アンケートについての説明を事務局に求める。
事務局	アンケートについて説明する。
委員長	委員に質疑・意見を求める。
委員 G	<p>資料の中の言葉「適正化」は、使い方や記載の仕方によっては、小規模校ではそれらが十分にできていないかのような誤解を生じさせてしまう可能性があるのではないか。</p> <p>意図としてはそのような意味ではないと思われるものの、特に小規模校に該当する学校や関係者に対して、否定的に受け取られる可能性がある表現になっていないか、注意が必要ではないか。</p> <p>こうした受け止め方が生じた場合、アンケートそのものに対しても、あらかじめ否定的な意識を持った状態で回答してしまうことにつながるおそれがあるのではないか。</p>

委員G	<p>そのため、アンケートに添付する資料の表現については、小規模校を否定する印象を与えないよう、誤解を生じにくい言い回しへの配慮が必要である。</p>
委員H	<p>先ほど指摘されたアンケート資料の同じ箇所では、小規模校における課題については記載されている一方で、小規模校の良さやメリットについての記載が見当たらない。また、学校規模を適正化した場合に想定されるデメリットや課題についても触れられていない。</p> <p>そのため、資料全体として、学校規模の適正化を進める方向性のみを前提とした文章構成になっているように受け取られる可能性があるのではないかと。</p> <p>このような記述の在り方によっては、読む側が「再編ありき」「適正化が唯一の正解」であるかのような印象を持ち、アンケートの中立性・公平性が損なわれるおそれがあるのではないかと。</p>
委員B	<p>アンケートに回答するにあたり、一般の方も閲覧できる形になるのかという点が気になった。実際に見たうえでアンケートに答えるほうが良いと考える。</p>
委員長	<p>中学生のワークショップの公開ということで良いか。</p>
委員B	<p>中学生から出された意見についても、概要として「このような意見が出た」という形で公開される予定か。</p>
事務局	<p>ワークショップ単体での公開については検討中ではあるが、今回の検討委員会において説明したワークショップの内容については、すべて会議録および配付資料として公開する。中学生の意見についても、公開されるということで認識をお願いします。</p>
委員A	<p>中学校の再編時期について、令和13年4月1日に実施する案に賛成する意見と、令和14年4月1日以降が望ましいという意見の双方があるため、その根拠となる令和13年以降の各中学校の生徒数を資料に示しておくべきだと考える。</p> <p>中学校の生徒数が減少していくことが、今回の再編案の背景になっていると考えられるため、小学校単位の数値ではなく、中学校単位で、令和13年以降の学年ごとの生徒数の見込みを</p>

委員A	資料に掲載した方が、なぜこのような案になったのかが理解しやすくなると考える。
委員長	検討させていただく。
事務局	市内の生徒数が大きく減少している状況については、詳細データにアクセスできるよう、生徒数の推移ページへとリンクする二次元コードを資料に掲載している。令和13年度以降の具体的な数値を資料に直接記載する方針であれば、その内容も追加することは可能である。 意見を頂戴した内容はいくつかの観点に分かれますので、差し支えなければ、これらの整理については委員長にご一任いただき、事務局と委員長とで本日のご意見を踏まえたアンケート案を作成したいと考えている。そのうえで、2月中旬には、アンケートを発信できるよう準備を進めていきたい。
委員長	本日いただいたご意見については、委員長と事務局で協議のうえ、アンケートを実施できるよう準備を進める。追加の意見があったら、本日の会議終了後に構わない。こちらで内容を引き取らせていただき、準備を進めていきたいと考える。
	(5) その他について
委員長	その他について事務局に説明を求める。
事務局	その他（次回開催予定、検討に関する資料）について説明する。
委員長	事務局より次回検討委員会を、令和8年3月27日（金曜日）19時開始 宇和和地域づくり活動センター4階大ホールが提案された。 この日程で、進めても良いか。 (様々な意見あり)
委員長	意見を踏まえ、次回の検討委員会は令和8年3月12日（木曜日）19時開始 場所は市役所5階大会議室でお願いしたい。

<p>事務局 (教育部長)</p>	<p>これまでの検討では、中学校の現状や課題を中心に、皆様からいただいた内容に応える形で進めてきた。しかし、その結果、検討の焦点がややぼやけてしまった印象は否めず、反省している。</p> <p>中学生からもワークショップにて、さまざまな意見をいただいたが、次回からは再編計画の素案に基づき、委員の皆様からご意見をいただくためのワークショップを企画したいと考えている。</p> <p>本日も色々なご意見をいただいたが、例えば「三瓶と明浜が一緒になった場合の通学はどうするのか」「野村と城川が統合された場合、校舎は築年数の新しい城川を活用すべきではないか」といった意見は、これまでも委員会でも上がってきた意見である。加えて、委員Fからのご意見によると、区域外通学について検討する必要が出てくるかもしれない。</p> <p>様々なご意見はあると思うが、まずは必要な資料をこちらで準備するで、次回のワークショップから、再編計画素案について、委員の皆様にもさまざまな意見を出し合ってもらい、その中で明らかになってきた課題を順次整理しながら、検討を前に進めていければと考えている。</p> <p>中学生ワークショップの意見や、今回実施するアンケートも、委員の皆様のご検討内容を反映する形で進めいく。</p> <p>最終的に再編案が出来上がった段階では、地域への説明やパブリックコメントの実施を行い、その際にいただいたご意見を紹介しながら、公表できる形を整えていく予定である。</p> <p>まずはその点をご理解いただき、今後も委員の皆様からいただく「中学校のこれからのに関するご意見」を中心に再編計画についての議論を進めていく。</p> <p>次回以降も、引き続きさまざまなご意見をいただければ幸いです。</p> <p>4 その他</p>
<p>事務局</p>	<p>次回、3月12日に開催予定の第4回検討委員会が、令和7年度における最後の検討委員会となる。</p> <p>第1回検討委員会の際にもご説明したが、事務局としては、年度が替わり役職が変わった場合であっても、引き続き検討委員としてお願いしたい。</p> <p>P T A会長が交代するため、当初からその旨をご報告いただいている方もおられる。ぜひ継続してお力添えいただければ幸</p>

